

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4671000240
法人名	医療法人 世光会
事業所名	千寿園ケアホーム
所在地	鹿児島県指宿市十町2523番地1 (電話) 0993-24-3300
自己評価作成日	平成22年4月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://kaken-shakyo.jp/kohyo
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成22年6月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者への優しく丁寧なケア、そしてご利用者・職員互いに信頼がおけ、何でも相談できるような関係作りが心掛けています。認知症という病気により、本来常に不安やとまどいの心境にあられるであろう方々に対しても、周囲の温かい目・優しい声掛け、そして、重度の物忘れ・思い込み等があってもそのままのご本人を受け入れて差し上げられるような環境があれば、ご本人の不安は軽減し、穏やかな気持ちで生活することができます。当ホームは、各ご利用者のその方らしさ・こだわりを大切に、『ここに居たら安心だ』『嬉しい・楽しい・幸せだ』と言っただけのような、穏やかで居心地の良いケアと環境作りを目指し日々取り組んでいます。『スタッフ一同が、ご利用者お一人お一人を尊重し、大切に、心を込めてお手伝いさせていただいていること』『9名の、笑顔が素敵で心優しいご利用者様方に恵まれ、共に毎日楽しく幸せに生活できていること』、これが当事業所の最大の長所であると考え、ずっと大切にしていきたいと思っております。今後も現状に満足することなく自らを反省し、また利用者・ご家族からのご意見・ご要望を大切に、共に『ご利用者にとっての幸せ』を追求しながら、『より良いケア・ご利用者にとってのより良い生活』を目指して取り組んでいきたいと考えています。他にも、ご利用者に楽しんでいただけるよう、四季折々の行事を多数実施したり、また、認知症の方を地域の中で温かく受け入れていただけるための環境作りとして、認知症ケアの啓発活動を行ったりしています。微力ではありますが、専門職として学んだ知識を、地域の中で広げていけるよう、一層取り組んでいきたいと考えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・管理者や職員は、理念に基づき利用者を中心としたケアを心かけている。「しあわせ会議」や「給食会議」を定期的に行い意見や要望を聞いて、利用者の思いを把握し、運営に反映している。
- ・ミキサー食の人が固形食になったり、全介助の人が自力で食べられるようになるなどの食事の自立への支援を行い、家族から喜ばれている。
- ・身体拘束廃止委員会で現状の確認や話し合いを行い、全職員で身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。
- ・一人ひとりの排泄のパターンを把握し、声かけを行い、排泄の自立支援でオムツはずしを利用者と一緒に行っている。利用者の平均年齢は高いが、排泄の自立に取り組み、現在オムツの使用者はいない。
- ・近隣や地域との交流があり、認知症ケアの啓発活動にも力を入れている。毎月、事業所としても、地域の清掃活動を行っている。
- ・管理者・職員は、生き生きと仕事をしており、職員は定着して長期勤務の職員が多い。利用者と一緒に笑顔と笑い声のたえないホームである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	開設当初より地域に根付いた運営をモットーに理念を掲げると共に、毎月の職員会等で確認し共有を図りながら、ご利用者と地域との結びつきを大切に実践に繋げている。	地域の中のホームとして、事業所は独自の理念を作りあげている。管理者・職員は、理念を玄関やホールに掲示し、毎月の職員会議で確認しながら日々のケアの中で共有し、取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	ほぼ毎月、事業所単位で地域の清掃活動を行っている。また、ご利用者と共に地域のお店へ買い物に出かけたり、近隣の方と互に行き来をしたりする等、日常的な交流を大切に支援を行っている。	園児や習字練習のボランティアや十五夜等の地域行事への参加、近隣との挨拶や野菜のやり取り、毎月事業所として地域の清掃活動を行うなどして、地域との交流を行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	随時、地域の方からの介護の相談に応じ、見学者の方へ資料や文献を貸し出す等、地域へ向けケアに関する助言等を積極的に行っている。地域運営推進会議でも議題とし、認知症を知っていただけるよう発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で課題への取り組み状況について報告したり、委員の方々と一緒に自己点検を行ったりしている。外部評価の結果を会議で報告し検討したり、得られた意見を積極的に受け止め、運営に繋げている。	会議は家族の代表等が参加して充実した会議が行われている。事業所のサービスの状況報告や、評価の報告を行っている。意見や要望をサービスの向上に活かしている。終了後、不参加の家族へ報告をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	2月おきの地域運営推進会議に市役所担当者の出席を求め、日々の状況・取り組みについて報告したり、協力を得てご利用者とのお茶会の中で様子を知っていただいたりしている。	市担当者は運営推進会議に参加して意見交換ができています。日頃から担当窓口へ出かけて行き連携が取れており、事業所のサービスの取り組み状況を報告しながら協力関係への取り組みを行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	『身体拘束は絶対に行わない』をスローガンとして重要事項等に定め、そのためのケアに取り組んでいる。年4回の身体拘束廃止委員会で、指針や禁止事項等について確認したり、廃止のための検討会を行ったりしながら、全職員での意識徹底に取り組んでいる。	年4回の身体拘束廃止委員会で現状の確認・話し合いを行い、全職員で身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関する研修会に出席したり、職員間で資料を回覧したりしながら全体での学習を深めている。虐待がないよう常に注意を払い、全職員でご利用者が心地よく過ごせるための環境作りに心がけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護に関する研修会に出席したり、資料を用い勉強会を開いたりしながら、全職員での理解を深めている。必要に応じてご家族等と話し合ったり、制度について案内したりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約・改定の際は、書面と口頭でご家族等に説明を行い、疑問点がないか確認をした上で、署名・捺印をいただくようになっている。現在のところ、契約に関するトラブルはなく、快諾いただけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関に意見箱を設置し、またご来園時等、ご家族ごとに、お気づきがないかをお尋ねするようにしている。市役所・地域の公民館長に外部の相談窓口を依頼しご家族へ周知している。相談ごとにはできるだけ早急に対応させていただいている。	家族の面会時には、管理者や職員は声かけを行い、要望や意見を聞いている。玄関に意見箱も設置している。利用者の思いは「しあわせ会議」や「給食会議」を定期的に行い、意見・要望を聞いて運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日常的に職員間で意見を交換し、毎月の職員会では、必ず困りごとや気づきがないか出席者に確認している。日頃より信頼関係、相談しやすい環境作り心がけている。意見はできるだけ取り入れるようにしている。	代表者や管理者は、職員と話し合いを行っている。また、毎月の職員会議、年2回の食事会等で職員の意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映させている。異動もなく、長期勤務の職員が多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は、管理者・職員各自の努力・実績について把握し評価を行っている。職員のやる気を遮ることなく、個性を大切に積極的にバックアップし、スキルアップのための研修会等も多く提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>各自の悩み・意欲・力量に応じて研修機会を提供したり、その時々事業所の課題に応じた内容で毎月勉強会を設けたりしている。職員同士で気づいたところを互いに声を掛け合う等、全体でのケア向上に努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県・地区等グループホーム連絡協議会の会員として共に活動したり、交流会に参加し意見交換を行ったりしている。地域の管理者会等でも事業所同士互いに親睦を深めながら、共にケアの向上に努め取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居時に係るご利用者・ご家族の緊張や不安について理解し、できるだけ要望を出していただきながら、それらをできる限り多く取り入れ、その方らしさやこだわりを大切にしたい、安心してできる環境づくりに努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族等に不安・困りごとがないか常に気を配り確認するよう心がけている。入居当初は特にこまめに報告を行ったり、秘密は厳守する等、何でも相談いただけるようなご家族との関係作りを大切に、心がけている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>初期にご入居相談を受けた際、その方にとってグループホームへの入所が最善の選択であるのか、他に在宅生活を続行できる希望がないか、あらゆる面で一緒に検討し、提案等を行っている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>介護する側・される側という壁ができぬよう、常にご利用者を尊重し、あらゆる面でご利用者に活躍していただけるよう工夫している。事業所内にはいつもお互いの支え合いがあり『ありがとう』の言葉で溢れている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者にとってご家族は、なにものにも代えることのできないかけがえのない存在であることを理解し、常にご家族が一番の協力者であることを念頭に、協力をいただきながらご利用者の支援に当たっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者にとって、これまで築いてきた地域・友人との繋がりが貴重であることを理解し、ご入居を機に遠のいてしまわぬよう、ご利用者の馴染みの人・場所へと、現在もできる限り支援を行っている。	友人が訪ねて来たり、友人宅へ出かけたり、自宅を訪問したり、近くの公園へ出かけている。利用者の馴染みの人や場所との関係が途切れないように、一人ひとりの思いに合わせて支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各ご利用者の個性・思いを把握し、利用者間の関係性・支え合いを大切に支援している。コミュニケーションをお手伝いする等、良好な関係を支援し、ご利用者は毎日を穏やかに、にこやかな表情で生活されている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご入院され退去後もなお、お見舞いに伺ったり、ご本人・ご家族との手紙等でのやりとりを続けたりしている。その方にとって重要な情報（その方らしさ・こだわり）を入院先に伝える等、関係性を大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常的にご利用者の意向を聞き取れるよう努め、得られた情報はその都度記録・申し送りを行い全体で共有している。失語症の方へも表情を注意深く観察する等、把握に努めている。	日々のケアの中から、また、「しあわせ会議」や「給食会議」の中で、利用者と会話しながら思いや意向の把握に努めている。困難な人の場合は、筆談をしたり表情の観察や家族の協力を得て、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント表を用い、入居前の生活環境・サービス利用の経過等の情報を把握した上で、できるだけ今までの生活に近い環境の中で支援できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各ご利用者の毎日の過ごし方・心身状況の変化等は記録を行い、こまめに把握を行っている。サービスの変更・追加について、その都度検討している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全関係者が、ご本人の立場に立ち必要な支援について考え、意見交換を行っている。ご本人にとってより良い生活を皆で検討し、アイデアを出し合いそれを生かしながら、介護計画の作成を行っている。	毎月モニタリングを行っている。本人・家族・職員・医師等の意見や話を聞きながら、担当者会議で本人本位の介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全職員が日々のご利用者との関わりや思いの聞き取りを大切に、新しく得られた情報は随時記録・申し送りをし共有している。必要時は検討し、計画の変更を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所でサービスの限界を作らず、できるだけその方の思い・生活スタイル・こだわりを尊重できる柔軟的サービスの提供に心がけている。必要や要望に応じて、その都度サービスの変更等を行い支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	各ご利用者にとっての地域資源（友人・馴染みの店や場所）を大切に、可能時に送迎支援している。地域の方々にご利用者の存在を知っていただきながら、ボランティアとしても多く協力いただいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医について確認を行い、ご本人・ご家族の選択された各医療機関へ、送迎支援を行っている。事業所との協力医療機関も選定し、緊急時に対応できる体制を整備している。	本人・家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。希望の医療機関へ送迎も行っており、母体医療機関では往診も行っている。適切な医療が受診できるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>職員は、看護師からの日常的な指導や定期的勉強会等で医療知識について学んでいる。ささいな気づきを随時相談する等、連携を図っている。担当医・看護職員の指示の下、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入居時に、ご利用者のかかる各病院について確認している。各病院のケアマネージャー等と情報交換をしながら、スムーズな入院・早期退院等を支援している。必ず情報提供表の交換を行うようにしている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に事業所の看取りに関する指針等について説明を行った上でご本人・御家族の希望をうかがい、署名をいただいている。緊急時の連絡先について確認し、ご本人希望の病院や教会等と、日頃より交流・連携し、共有を図っている。</p>	<p>「看取りに関する指針」があり、利用時にその説明を行い、同意書を取っている。緊急時の連絡先や希望の病院等、チームで、重度化や終末期の方針を共有している。また医師を囲んで勉強会を行い支援に取り組んでいる。その都度本人や家族の希望を聞きながら支援をしている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>日常的に医師・看護からの指導・教育を受けると共に、消防隊・救急隊による搬送・応急手当・AEDの使用等に関する訓練を定期的に依頼し、全職員で実践力アップに繋げている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的に火災・地震・水害に関する訓練を実施したり、事業所内で講習会を行ったりしている。訓練時は隣家の方や地域の公民館長さんへ依頼・連絡し、参加協力をいただいている。</p>	<p>年2回避難訓練を昼・夜間想定で行っている。訓練時は、近隣住民や地域の公民館長等に参加・協力をもらい、地域との協力体制が築かれている。災害時の備蓄もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護に関する指針を事業所内に掲示している。定期職員会で意識徹底し、また日頃よりご利用者を尊重したケアについては最重要と捉え、言葉遣い・対応を指導している。	利用者一人ひとりを尊重し、プライバシーを損ねない対応に配慮している。人生の先輩として敬い、言葉かけなどが馴れ合いにならないように、職員会議で話し合いを行い、意識向上を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日課はあるが、決まりごととは作らず、随時ご利用者の希望を伺いながら支援している。「○○してください」ではなく「○○はいかがですか?」とご利用者の自己決定を大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「何時までに○○」といったご利用者を制限してしまう決まりごととは取り払い、臨機応変に日課の時間をずらしながら、各ご利用者のペースや思いを大切にしたい支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	更衣の難しい方も多いが、職員で衣類を選ぶのではなく「どちらがよろしいですか?」と確認しながら好みの衣類に支援している。外出時はお化粧を促し、おしゃれ着へ支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全ご利用者が食事の時間を楽しみにされているため、ご利用者の希望や力に応じて、野菜切り・おかずの盛り付け・お茶つき等、作業を分担し、みんなで協力しながらの食事を行っている。	利用者と職員と一緒に食事の準備や食事を行ないながら、食事が楽しみになるように支援を行っている。ミキサー食の人が固形食になったり、全介助の人が自力で食べられるようになるなどの支援を行い、家族から喜ばれている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立で、健康的な食事を提供している。ご利用者の嗜好・こだわりを把握しおかずを代替する等、工夫している。年2回給食会議を開き意見を取り入れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを推進し、随時確認を行っている。能力等に応じて、できるところはご本人で行っていただけるよう、準備や声掛けの方法を工夫している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	おむつ使用はなく、入院中一時的におむつを使用されていた方でも、退院後は徐々に外せるよう支援している。排泄失敗で傷つかれることのないよう排泄パターンを把握し、適切な声掛けやパット選びを工夫している。	平均年齢が高いが、オムツ利用者は現在はいない。一人ひとりの排泄のパターンを把握し、声かけを行い、排泄の自立支援でオムツはずしを利用者と一緒に行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘を理解した上で、解消できるよう各ご利用者の排便状況の把握と予防に努めている。水分量を管理し、好みの飲み物で補水アップを図ったり、好みのレクリエーションで運動量アップを図る等、工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	事業所の都合で入浴日を決めることなく、楽しみごととして毎日入浴できるようにしている。ご利用者からの希望の多い夕方に時間設定し、一人ひとりの希望や力に応じて支援している。	毎日入浴ができるように支援している。入浴を夕方に希望される方や熱めの湯を好む方、二人で入る等、順番を決めて、利用者の希望やタイミングに合わせて、入浴が楽しみになるように支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝寝をされる方、昼寝をされる方等様々だが、各ご利用者のこれまでの生活習慣や『その時々』の思い』を大切にしている。夜間のトイレ声掛け等、安眠の妨げとならぬよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者ごとの薬の説明書を回覧し、効用や副作用等を共有している。症状の変化については常時気かけ、医師・看護職員に電話連絡をとる等、密な連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常的な会話や意見交換の中から『やりたいこと』『行きたい場所』等の把握を図っている。年2回利用者会を開き思いの把握に努め、結果はご家族に報告し、可能な限り支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	希望に応じて1日1回は外出できるように環境を整えている。行きたい場所について把握できるよう努め、可能時は個別に支援したり、遠足先として取り入れたり、ご家族での支援を相談したりしている。外出時にはボランティアの方に協力をいただくこともある。	毎日、散歩や買い物等に出かけている。また墓参りや家族と一緒に外食等で外出している。利用者と一緒に「しあわせ会議」や日常会話の中で行きた所を聞いたりして、計画し外出支援をしている。車イスの方も外出支援を行っている。ボランティアの協力も時折ある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	『お金をもつこと』の重要性を理解し、買い物時でもできるだけ本人が自身のこととして係わることができるよう、介助者は側面的な支援を心がけている。		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	贈り物が届いた際、お礼の電話や手紙を届けられるよう支援している。コミュニケーション困難な方には、筆談したり職員が代弁したりする等、ご家族との関係を大切に支援している。		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	色・音・光等に配慮し、ご利用者の心落ち着ける空間を意識し心がけている。ホール・台所・居室等、ほぼ全ご利用者がご自分の生活空間として認識され、思い思いに行き来される等、自由に過ごされている。	広いホールは明るく、テレビや大きな楕円形のテーブルがあり、壁には、利用者が書いた習字やフラワーの作品が飾ってある。談話スペースは、スタンドグラスの窓で本棚・マッサージ機・エレクトーン・絵画等があり、居心地よく過ごせる工夫がしてある。	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	集いの場としてのホール・食堂があったり、自由に行き来のできる談話スペース（図書室・マッサージ機完備）等があり、ご利用者それぞれが自由に活用し、思い思いに過ごされている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各居室がご本人の心落ち着けるスペースとして、好みの物・馴染みの物で整備されている。入居後もご本人のご要望を確認しながら、必要時はご家族に相談し揃えていただいている。</p>	<p>三味線・神棚・仏壇・ぬいぐるみ・冷蔵庫・テレビ・家族の写真・自作の工作等、馴染みのものや使い慣れたものを持ち込んで、居心地よく過ごせる工夫をしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>車椅子が通るよう園内は段差がなく、広々とゆとりのある空間となっている。手すりがあり、足元に危険なものはおかない等、転倒されることがないように配慮している。単独外出による危険がないよう、玄関にはセンサーを設置し気をつけている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない